

牛伝染性リンパ腫

牛伝染性リンパ腫は、血液の中のリンパ球（白血球の一種）が腫瘍化することで起こり、以下に分類されます。

- ① 地方病型（ウイルス感染が原因の多中心型）
- ② 散発型（子牛型／胸腺型／皮膚型）

特に、牛伝染性リンパ腫ウイルス（bovine leukemia virus : BLV）により引き起こされる地方病型は、近年、全国的に発生が増加しており、当所においても増加しています。ウイルス感染拡大の原因は、人為的感染（汚染された注射針の使用等）、母子感染（感染牛の乳汁、分娩）、水平感染（吸血昆虫の媒介感染、同居牛からの感染）が考えられ、現在有効な治療法、ワクチンはない疾病です。ウイルス感染牛の大部分は無症状で、一部が発症し、体表リンパ節の腫大、消瘦、眼球突出、元気消失、食欲不振、乳量減少、下痢などを示します。しかし、見た目に異常がなく、と畜検査で初めて牛伝染性リンパ腫と診断されることもあります。

当所では以下の流れで診断を行い、迅速な行政処分を心がけています。

当所での診断の流れ

生体検査

- ・眼球突出や体表リンパ節腫大等の特徴的な異常
- ・血液検査（必要な場合）

合格の場合
と殺

不合格
と殺禁止

解体後検査

- ・解体検査
（内臓、リンパ節等に腫瘍病変の確認）
 - ・病理組織検査
（凍結迅速組織標本、スタンプ標本）
 - ・ウイルス遺伝子検査
（LAMP 法による BLV の検出）
- 以上により、牛伝染性リンパ腫と診断

全部廃棄

行政処分決定後に、固定材料を用いて更なる精密検査を実施しています。



リンパ節の腫大

（出典：動物衛生研究所）



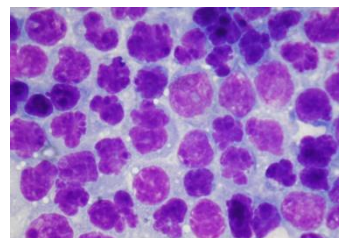
遠心分離した血液

左：牛伝染性リンパ腫、右：正常



腫瘍化した牛の心臓

（心臓は病変のできやすい部位です）

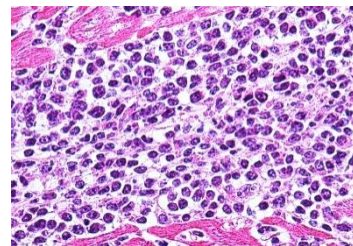


腫瘍細胞

スタンプ標本（メイギムザ染色）



凍結マイクロトーム



心臓組織内の腫瘍細胞

凍結迅速標本（HE 染色）

日ごろから飼養衛生管理および防疫対策を徹底し、牛伝染性リンパ腫が疑われる場合は、[最寄りの家畜保健衛生所](#)に相談してください。